

## 5月17日 主の昇天 マタイ28章16～20節 イエスはどこへ行ったのか

復活のあと、イエスは40日間弟子たちとともに過ごし、そして天に上げられたということです。それで「主の昇天」は復活祭から40日目の第6木曜日となります。キリスト教国でない日本などではその次の日曜日に祝います。今年はA年なのでマタイの福音が読まれるのですが、その最後はイエスが天に昇る直前で終わっています。そのかわりに第一朗読の使徒言行録では昇天前後の出来事が述べられています。

彼らが登った「指示しておかれた山」はガリラヤでした。これは墓で天使やイエスご自身が「ガリラヤに行きなさい」と告げたことの実現です。そこはイエスがお育ちになり、宣教を始められたところ、弟子たちが招かれた地方でした。イエスは同じ場所で再び弟子を集め、派遣の言葉を伝えて天に昇られたのです。

ではイエスはどこに行ったのでしょうか。もちろん「昇天」ですから天に行かれたということですね。昔の人にとって、空の上は行くことのできない、神のエリアでした。太陽、月、雷など、空の上にあるもの、起こることは神に属するものと考えられてきました。神は人間の上にいるというイメージを表していますね。しかし、科学の発展により人類は空の上に行くことができます。世界初の宇宙飛行士、ユーリイ・ガガーリンの「神はいなかった」という言葉が有名ですが、ソ連政府が存在を否定するために創作したという説もあります。いずれにしても、物理的な天上が神の住まいでないことは確かです。

その答えのヒントになるのが「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいる」という結びの言葉です。たしかにイエスの姿は見えなくなりました。しかし、弟子たちは別れを悲しむことはありませんでした。第一朗読でも、「天を見上げて立っていた」ということですから、突然の出来事に驚いていたのでしょうか。4月19日の福音では、パンを裂いたときにイエスだとわかった瞬間に姿が見えなくなりました。これは昇天の出来事と関係がありそうです。さらに、彼らがイエスの復活を告げるためにすぐに出かけたことは、今日のイエスの命令を表しているようにも思えます。

「天」は神のおられるところです。イエスが「あなたがたとともにいる」と言われるなら、そこが天であるといえるでしょう。つまり、イエスは弟子たちの内に来られたということです。心の中に来られたなら見ることはできません。姿が見えなくなったということはそういうことなのではないでしょうか。

わたしたちもイエスの姿を見ることはできません。それは、イエスを見失っているからではなく、わたしたちの心のうちにおられるからです。同じように、まわりの人の心にもおられます。わたしたちの心の中から、そして出会う人々の中から呼びかけておられるイエスの言葉に気づくとき、わたしたちも弟子たちとともにイエスの昇天の恵みにあずかっているといえるでしょう。

(柳本神父)